

長岡市津波避難地図

～普段からいざという時に備えましょう～



津波ハザードマップ

保存版



津波から身を守るため

強いゆれや弱くても長いゆれを感じたら
ゆれがなくても津波警報が発表されたら **すぐに高台へ避難!**



平成26年3月

ver.2.0



目次

津波を知る	
津波の想定地震について	P3
津波発生の仕組み・津波の特徴	P4
津波避難地図	
①寺泊山田地区	P5・6
②寺泊志戸橋・郷本地区	P7・8
③寺泊大和田～寺泊金山	P9・10
④寺泊港周辺(寺泊松沢町～寺泊磯町)	P11・12
⑤寺泊白岩～大河津分水路	P13・14
⑥寺泊野積地区(南部)	P15・16
⑦寺泊野積地区(北部)	P17・18
津波に備える	
津波に関する情報伝達経路	P19
津波警報・注意報の分類と、とるべき行動	P20
避難の心得	P21
普段からの心得	P22

このマップを作成した目的

普段からいざという時に備えましょう

- このハザードマップは、新潟県に甚大な被害をもたらすおそれのある津波を想定し、予想される浸水の範囲や深さを示した上で、避難場所や海拔などの避難に役立つ情報を示したものです。
- このマップを参考に、平日頃からご家庭や地域で、いざという時に備えて、避難場所までの経路や持ち出し品などについて事前に話し合い、考えていただきたいと思います。

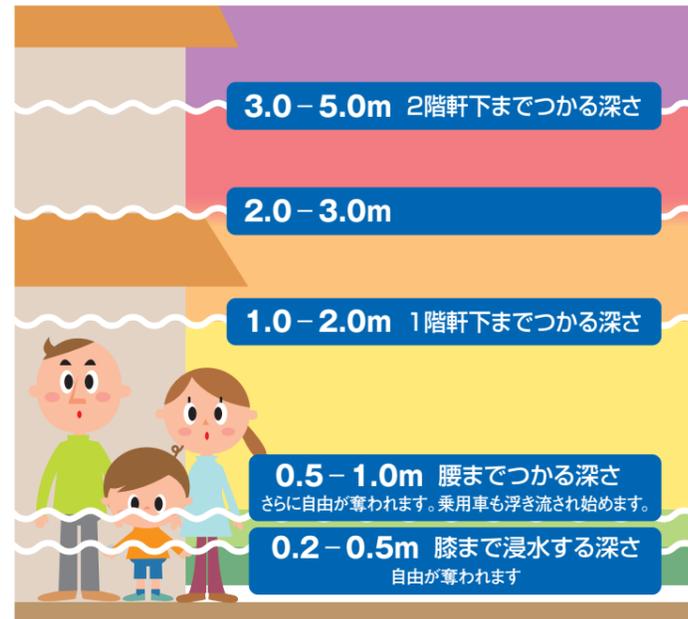
使用上の注意

想定に捉われない・速やかに避難

- このハザードマップは、新潟県が平成25年度に実施した津波浸水想定調査結果をもとに、地形データの詳細解析を行って作成しています。
- 発生する地震の規模や位置によっては、着色されていない箇所でも浸水する可能性があります。
- 強いゆれを感じたり、弱い地震でも長い時間ゆっくりしたゆれを感じた時は、海岸付近から離れ、ゆれがおさまったら近くの避難場所(高台等)へすぐに避難して下さい。

凡例

浸水深の見方 津波発生時に予想される水深を色別で表しています。



津波は漂流物と一緒に押し寄せるため、浸水深が浅いからと安心せず、いち早く避難しましょう。

5分で歩ける距離



※消防庁「市町村における津波避難計画策定指針(H25.3)」群集歩行速度1.0m/s、歩行困難者・身体障がい者・乳幼児等歩行速度0.5m/sより算定

- 要避難地域** 海拔12m以下の地域は津波による浸水の恐れがあるため、避難して下さい。
- 津波避難場所・施設** 避難場所及び避難施設
- 避難方向** 矢印の方向へ避難しましょう。
- 津波時危険箇所** 津波は河川をさかのぼるため、川沿いの道や橋を通して避難することは危険です。
- 施設等**
 - 要配慮者施設 20.0 避難先の海拔(m)
 - 防災行政無線 1.8 主な地点の海拔(m)
 - 主要公共施設 主要幹線道路
 - 地区防災センター 主要幹線道路(浸水が予想される箇所) 避難時は要注意!
 - 海水浴場 市町村界

土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域

地震により土砂災害が発生するおそれがあります。避難する時は注意して下さい。



津波の想定地震について

想定する地震

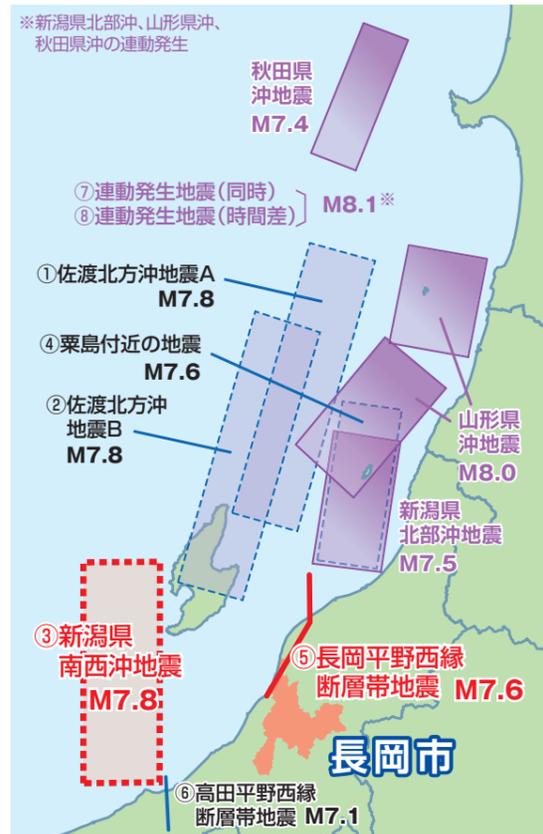
新潟県は、東日本大震災の教訓を踏まえ、県内に影響を及ぼすおそれのある8つの地震について、津波のシミュレーション調査を実施しました。長岡市津波ハザードマップでは、地震ごとに想定される浸水の深さと範囲を重ね合せ、最も浸水深が深くなる結果を表示しています。

想定地震

- ①佐渡北方沖地震(Aパターン) M7.8
- ②佐渡北方沖地震(Bパターン) M7.8
- ③新潟県南西沖地震 M7.8
- ④栗島付近の地震(新潟県北部地震) M7.6
- ⑤長岡平野西縁断層帯地震 M7.6
- ⑥高田平野西縁断層帯地震 M7.1
- ⑦連動発生地震(同時) M8.1
- ⑧連動発生地震(時間差) M8.1

【注意事項】

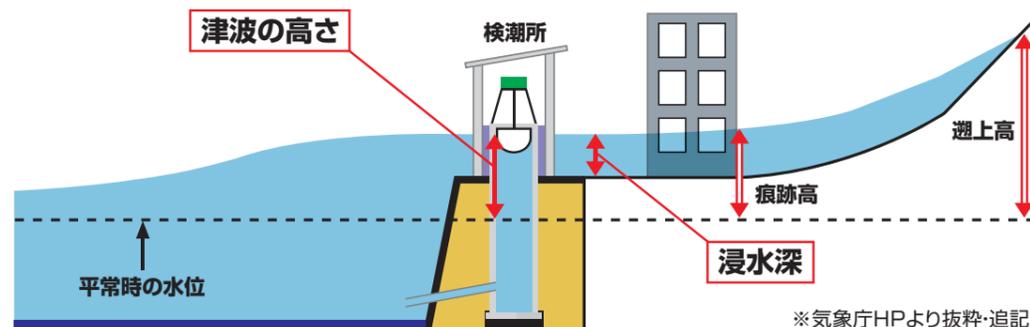
- 中小河川における河川上流の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
- マップに示した浸水の深さや範囲は、シミュレーション結果に基づくものであり、地震の位置や規模によっては浸水が想定されていない地域でも浸水したり、想定される深さが実際の深さとは異なる場合があります。



※H25年度 新潟県津波調査報告書より引用

津波の高さと浸水深

ハザードマップに掲載している「浸水深」とは、下図の「地面から水面までの高さ(深さ)」を示しており、「津波の高さ」とは異なります。



※気象庁HPより抜粋・追記

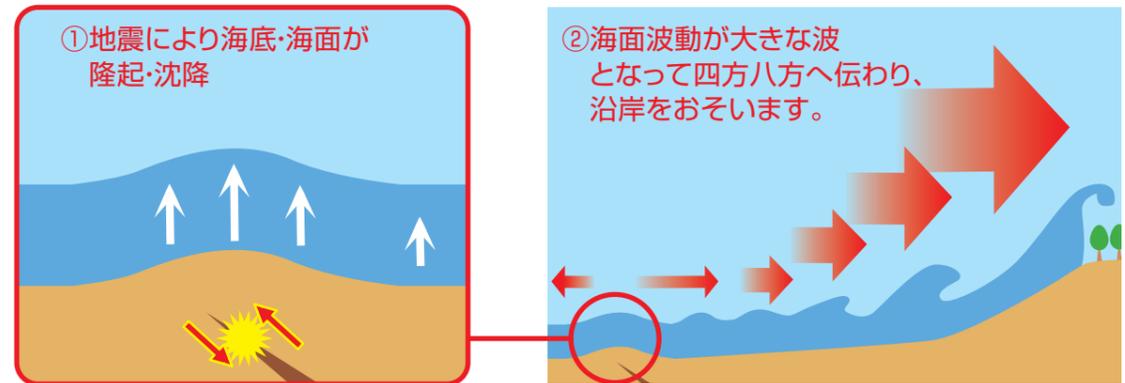
長岡市(寺泊地域)における最大津波高・第1波到達時間※

長岡市寺泊地域では、最大津波高3.96m(新潟県南西沖地震)、第1波到達時間5分以内(長岡平野西縁断層帯地震)と予想されています。

※第1波到達時間：地震発生から最初に沿岸部での津波の高さが20cm上昇した時、または浸水深が20cm以上になった時の時間のことを言います。

津波発生時の仕組み

海底の地下の浅い所で大きな地震が起こると、断層の運動により海底の地盤が隆起したり沈降したりします。この海底の変形に伴って海面が変動し、津波の原因となります。



津波の特徴

沖合ではジェット機並み

津波は沖合ではジェット機並みの速度(時速800km)に匹敵し、浅い所や陸上でもオリンピックの短距離選手並みの速さ(時速36km)です。人が走って逃げ切れるものではありません。



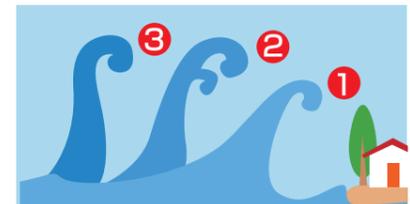
引き潮が無くても来る

地震の起こり方や、震源付近の地形によっては引き潮が起こらないこともあります。2004年の十勝沖地震による津波や、2004年のスマトラ沖地震の際にスリランカやインド沿岸に押し寄せた津波では、直前に潮が引くことなく大きな波が押し寄せました。



2波、3波と繰り返す

津波は繰り返しおそってきます。第1波が最大であるとは限りません。



津波の高さは想像以上

津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。岬の先端やV字型の湾の奥などでは波が集中するため、特に注意が必要です。



事例に学ぶ津波被害①

新潟地震のときの津波は？

1964年6月16日に新潟地震が発生し、寺泊の震度は4、津波の高さは1.5mで、寺泊港では海面と岸壁が同じに見えるほどの水面上昇でした。一部の住民は裏手の山へ避難しましたが、海岸へ出て潮の動きを見たりする人もいました。東日本大震災では、津波の遡上による被害が大きく取り上げられましたが、強いゆれなどを感じたら海岸や川には絶対に近づかないで、直ちに高台等へ避難して下さい。いち早い避難行動が命を守ります。

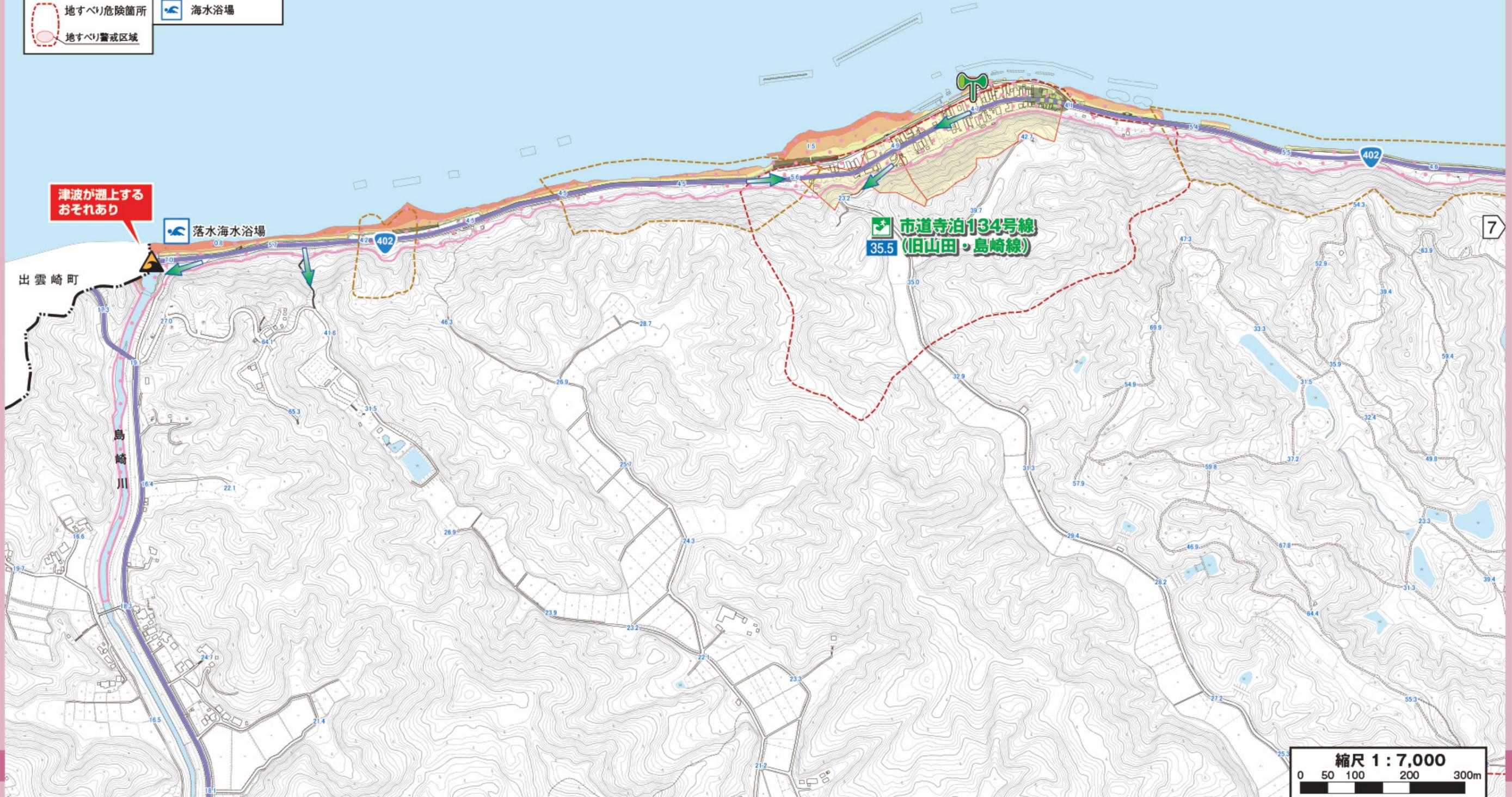
◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



凡 例	
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3~5m	要避難地域
2~3m	避難場所及び避難施設
1~2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5~1m	避難方向
0.2~0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	



縮尺 1 : 7,000

0 50 100 200 300m

事例に学ぶ津波被害②

津波以外の災害も同時に発生します

新潟地震でも経験していますが、津波をひき起こす地震、地盤の液状化、火災といった複合災害が発生します。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、死者・行方不明者合わせて約1.9万人、建物被害は全半壊が約40万戸、全半焼が約300戸、床上・床下浸水が約1.4万戸、一部損壊が約74万戸、道路・橋梁被害で約4300、山崖崩れが約200箇所といった甚大な被害をもたらしました(出典:H25.8.9警察庁 緊急災害警察本部発表資料)。

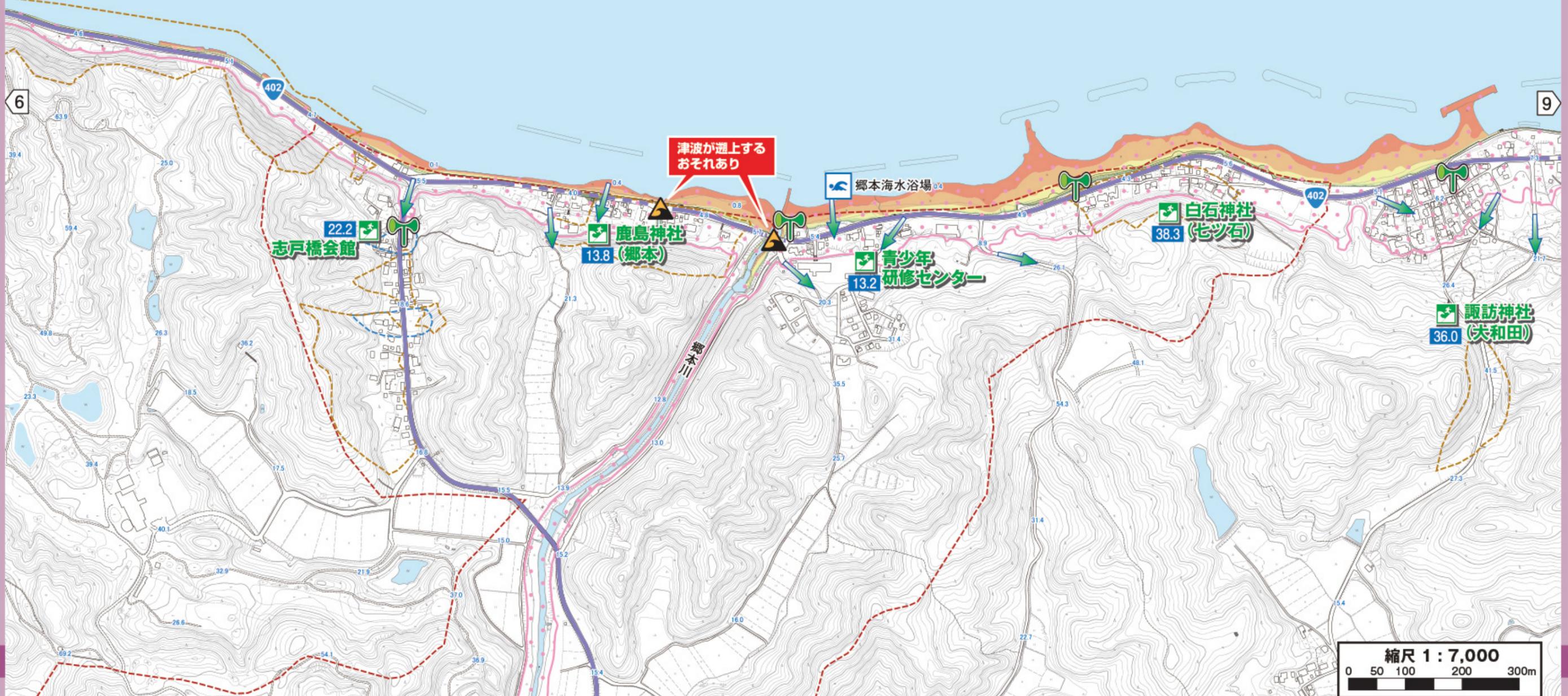
◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



凡 例	
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3~5m	要避難地域
2~3m	避難場所及び避難施設
1~2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5~1m	避難方向
0.2~0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	



縮尺 1 : 7,000
0 50 100 200 300m

事例に学ぶ津波被害③

ゆれは弱くても大津波が発生することがあります

1896年の明治三陸津波では、約2.2万人が津波の犠牲となりました。この地震は、陸上で感じたゆれは震度2か3程度であったと言われています。

このように地震のゆれは弱くても大津波を発生させることがあります。

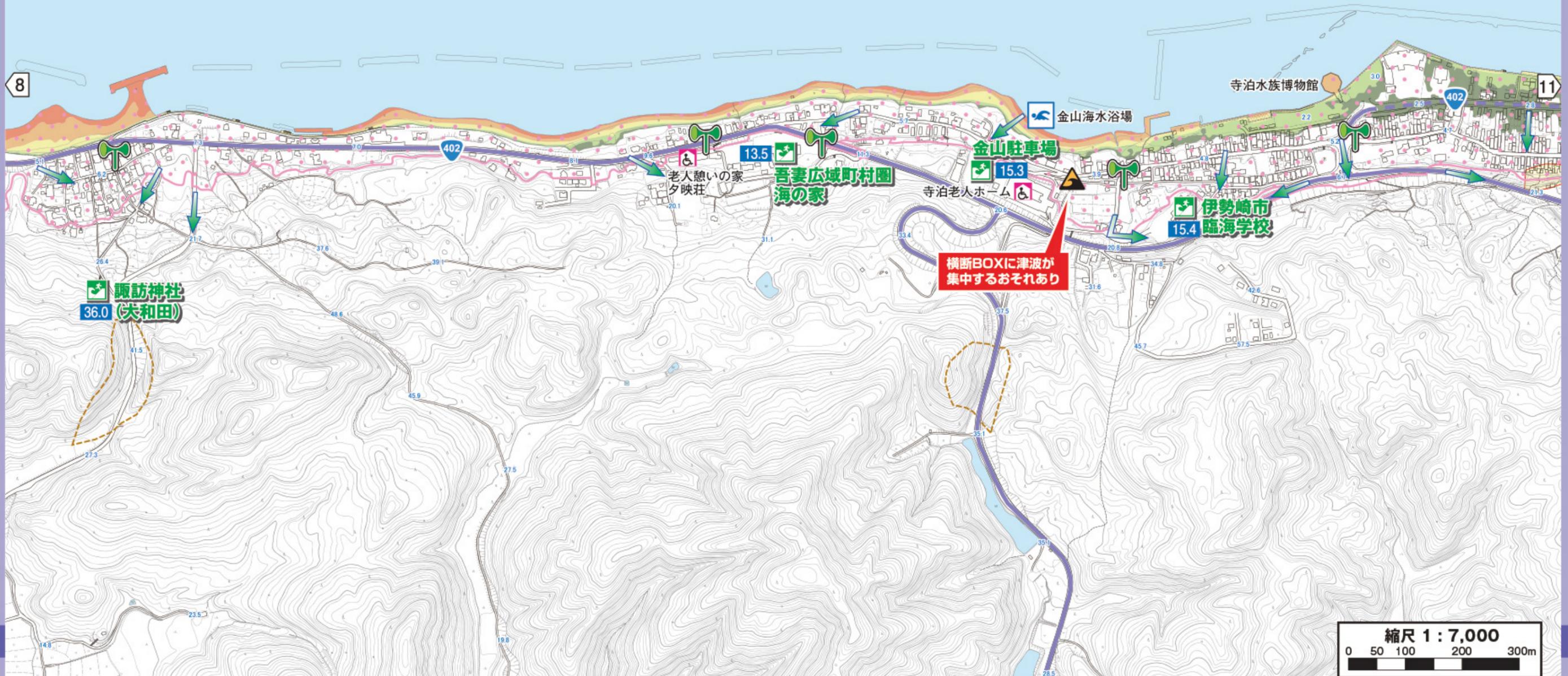
◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



凡	例
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3～5m	要避難地域
2～3m	避難場所及び避難施設
1～2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5～1m	避難方向
0.2～0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	



事例に学ぶ津波避難

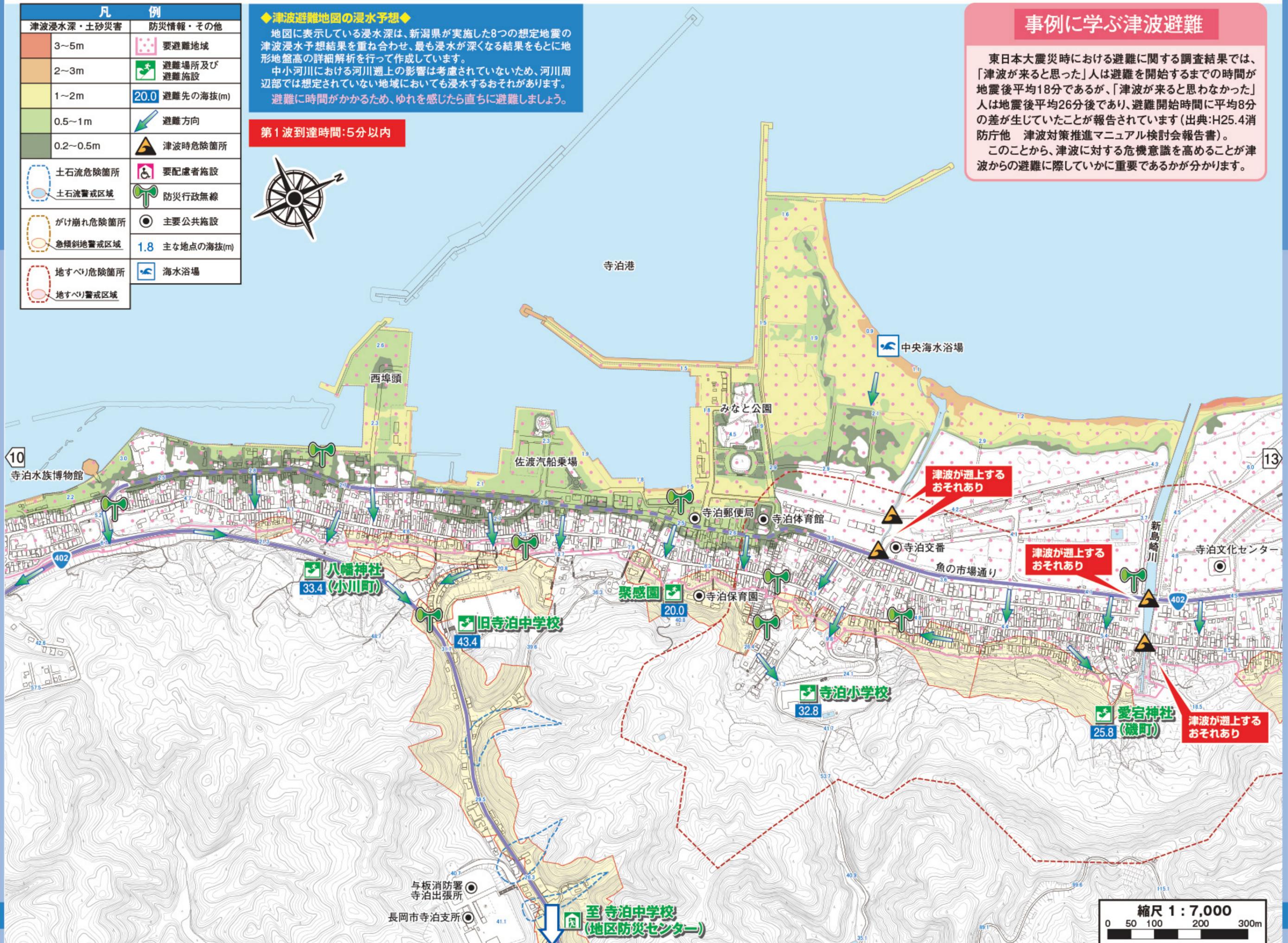
東日本大震災時における避難に関する調査結果では、「津波が来ると思った」人は避難を開始するまでの時間が地震後平均18分であるが、「津波が来ると思わなかった」人は地震後平均26分後であり、避難開始時間に平均8分の差が生じていたことが報告されています(出典:H25.4消防庁他 津波対策推進マニュアル検討会報告書)。
このことから、津波に対する危機意識を高めることが津波からの避難に際していかに重要であるかが分かります。

凡	例
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3~5m	要避難地域
2~3m	避難場所及び避難施設
1~2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5~1m	避難方向
0.2~0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	

◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



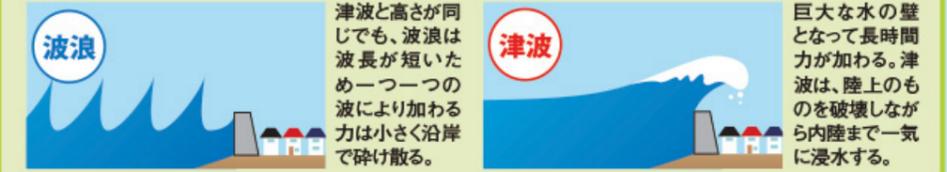
津波クイズ①

普段の波と津波の違いは何ですか？

A 発生仕組み、
そして何よりも破壊力が違います。

波は海域で吹いている風によって生じる海面付近の現象ですが、一方、津波は地震などによって発生し、海水全体が持ち上がり下がったりしており、波長は非常に長く数十～数千kmに及びます。

このため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せるため、比較にならないほど大きな破壊力を持っています。



波浪

津波

津波と高さと同じでも、波浪は波長が短いため一つ一つの波により加わる力は小さく沿岸で砕け散る。

巨大な水の壁となって長時間力が加わる。津波は、陸上のものを破壊しながら内陸まで一気に浸水する。

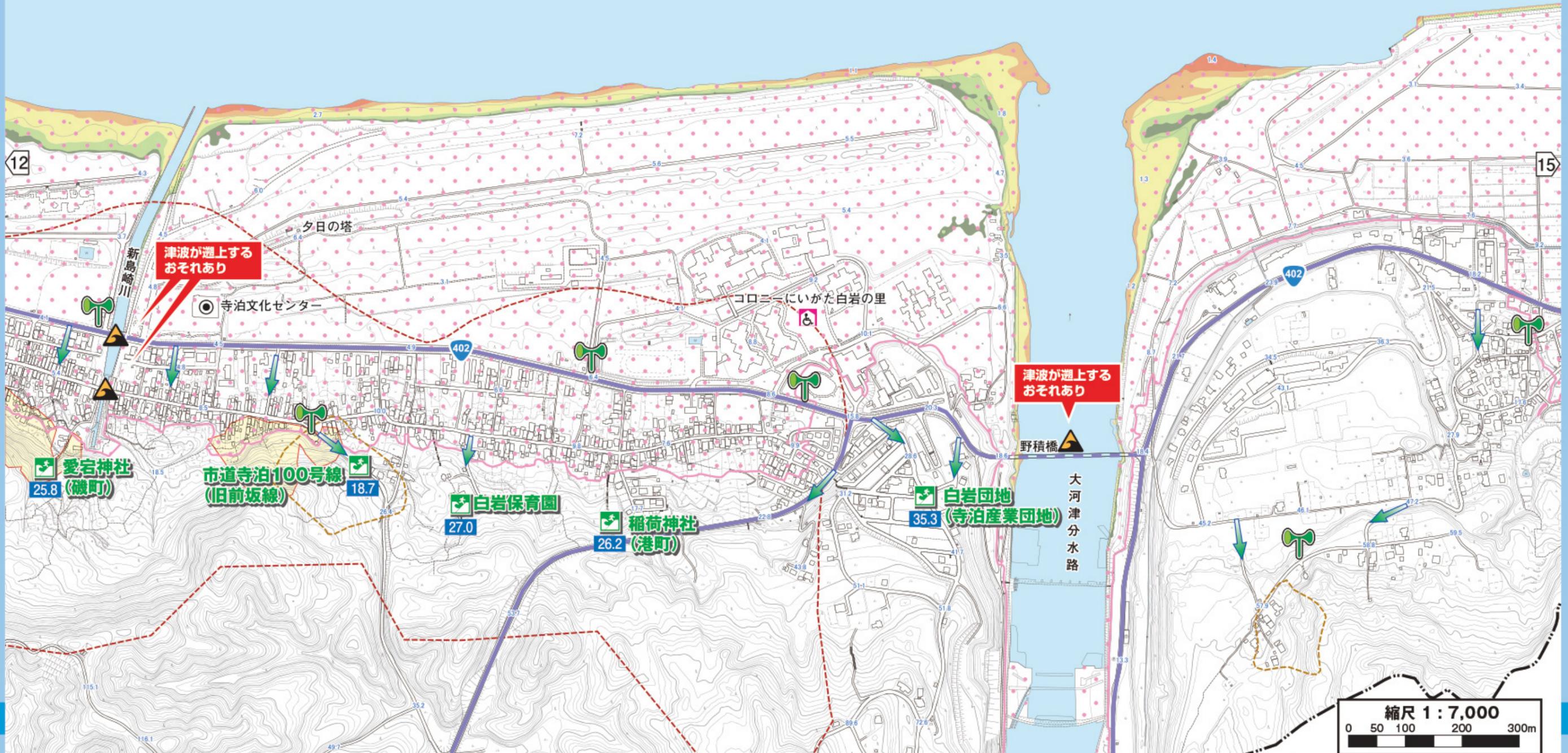
◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



凡 例	
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3~5m	要避難地域
2~3m	避難場所及び避難施設
1~2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5~1m	避難方向
0.2~0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	



縮尺 1 : 7,000

0 50 100 200 300m

津波クイズ②

30cmの津波でも危険ですか？

A 20~30cm程度の波でも、さらわれてしまいます。

津波は、大変スピードのあるエネルギーの大きな波です。20~30cm程度の津波でも立っていることが困難になります。

津波の高さが20cmを超えると、流速が0.3m/秒を変える例が多くなることなどがいくつかの調査で知られていますが、海水浴場の安全基準としては0.3~0.35m/秒程度で遊泳禁止となることが多く、この事もあって、気象庁でも津波が0.2mを超えると予想される場合に、津波注意報を発表しています(出典:気象庁HP)。

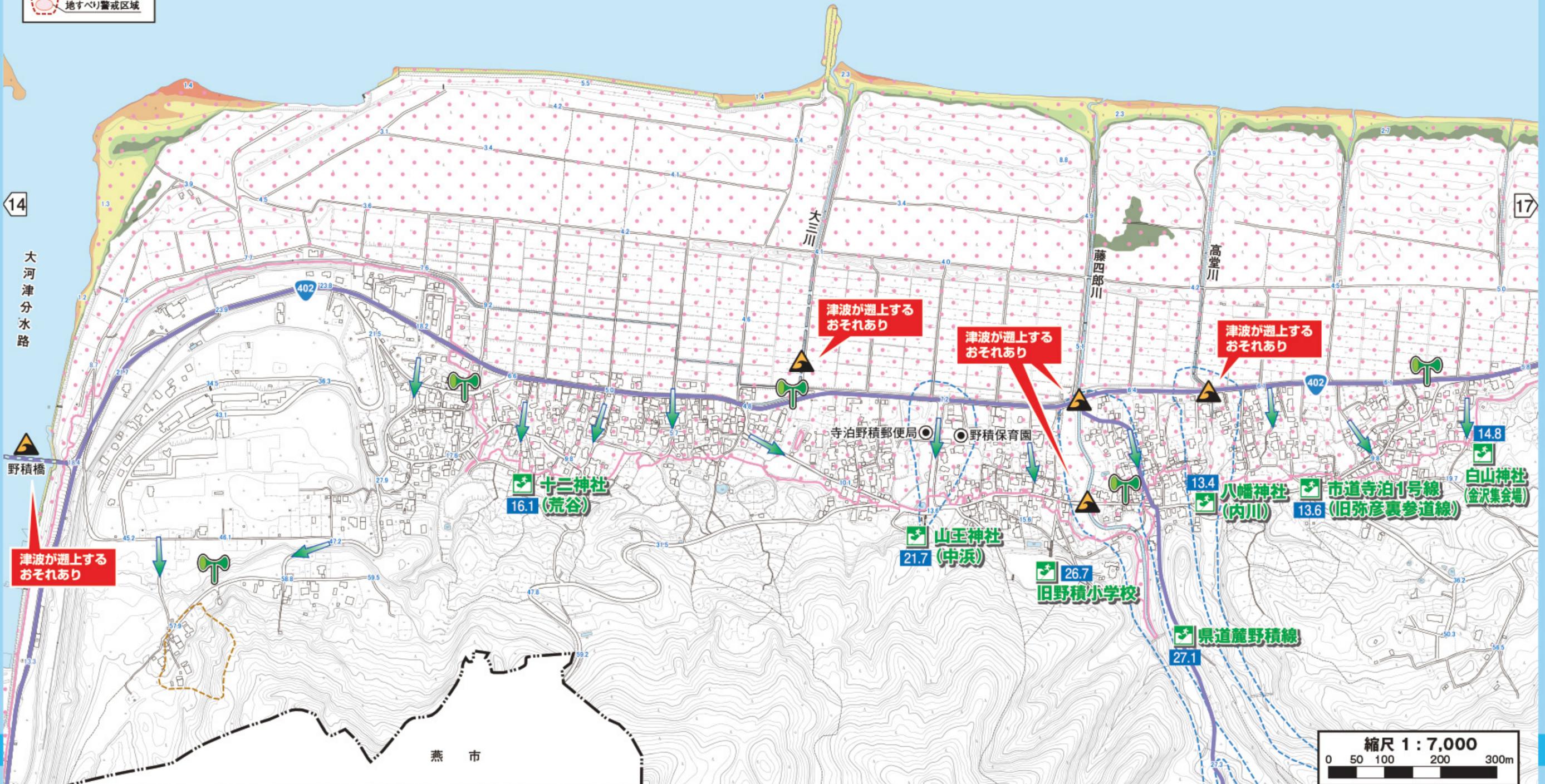
◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



凡 例	
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3~5m	要避難地域
2~3m	避難場所及び避難施設
1~2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5~1m	避難方向
0.2~0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	



縮尺 1 : 7,000

0 50 100 200 300m

津波クイズ③

日本で一番大きな津波はどれくらいですか？

A 30m以上の津波がありました。

2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による津波では、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による調査により、岩手県大船渡市の綾里湾で局所的に39.7mの遡上高(海岸から内陸へ津波がかけ上がった高さ)が観測されました。

記録に残っている中では、1896年の明治三陸津波(遡上高で約38.2mと推定)と同じく岩手県大船渡市を上回り、これまでに日本で記録された最大の津波となりました。

ただし、これらはここ100年間程度の、記録が残されている範囲での値であり、それ以前にも同程度、あるいはより高い津波が日本の沿岸を襲った可能性があります。近年、過去の津波の痕跡から浸水範囲を推定する調査が進んでおり、今後、より大きな津波の証拠が見つかるかも知れません(出典:気象庁HP)。

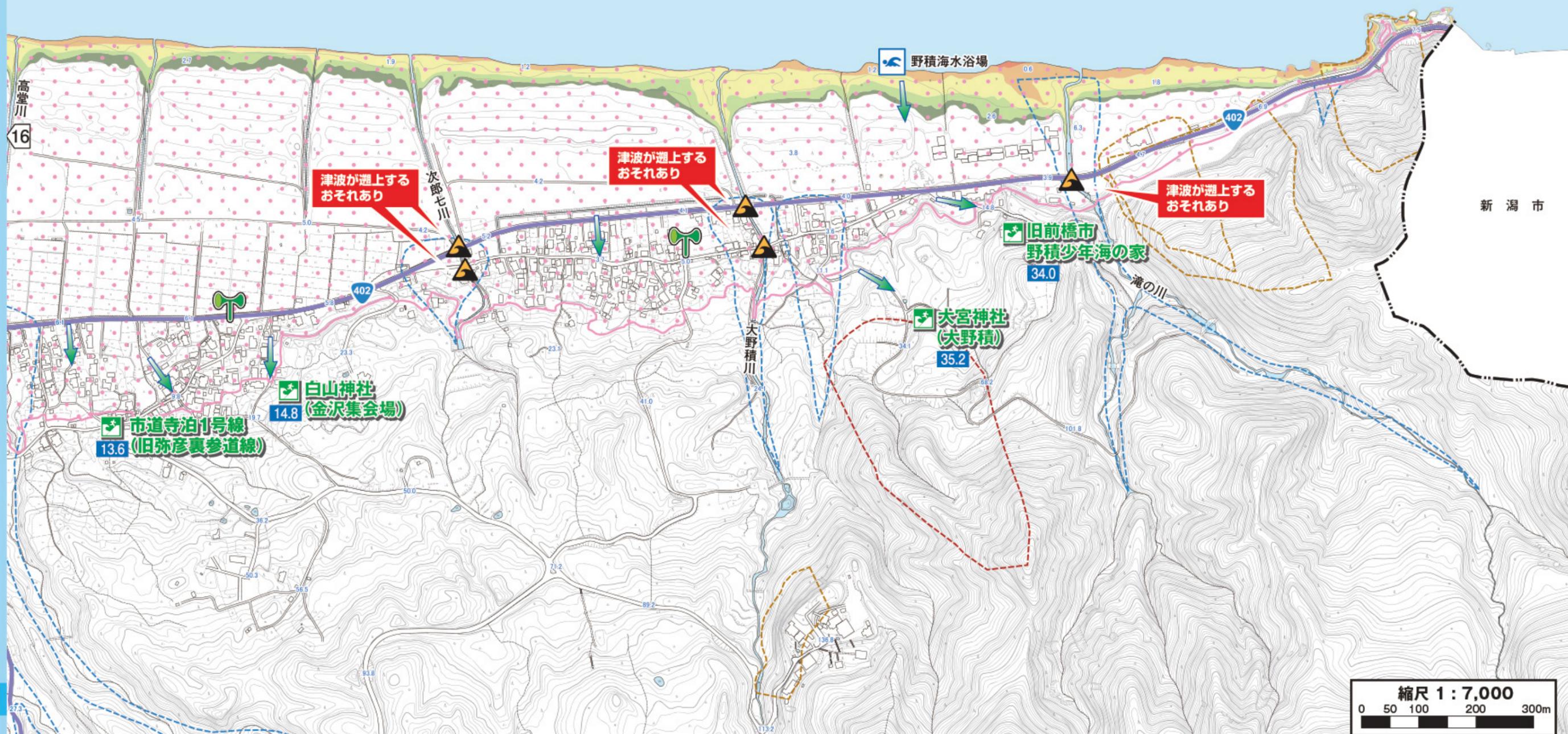
◆津波避難地図の浸水予想◆

地図に表示している浸水深は、新潟県が実施した8つの想定地震の津波浸水予想結果を重ね合わせ、最も浸水が深くなる結果をもとに地形地盤高の詳細解析を行って作成しています。
中小河川における河川遡上の影響は考慮されていないため、河川周辺部では想定されていない地域においても浸水するおそれがあります。
避難に時間がかかるため、ゆれを感じたら直ちに避難しましょう。

第1波到達時間:5分以内



凡 例	
津波浸水深・土砂災害	防災情報・その他
3~5m	要避難地域
2~3m	避難場所及び避難施設
1~2m	20.0 避難先の海拔(m)
0.5~1m	避難方向
0.2~0.5m	津波時危険箇所
土石流危険箇所	要配慮者施設
土石流警戒区域	防災行政無線
がけ崩れ危険箇所	主要公共施設
急傾斜地警戒区域	1.8 主な地点の海拔(m)
地すべり危険箇所	海水浴場
地すべり警戒区域	



縮尺 1 : 7,000
0 50 100 200 300m

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

気象庁では津波による災害の発生が予想される場合に、地震発生後約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

例：3mから5mの間の津波が予想されたら「予想される津波の高さは5m」と発表します

	予想される津波の高さ		とるべき行動
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現	
大津波警報(特別警報)	10m超 (10m<高さ)	巨大	<p>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。</p> <p>津波は繰り返しておそってくるので津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。</p> 
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	<p>ここなら安全と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!</p>
津波注意報	1m (20cm<高さ≤1m)	(表記しない)	<p>海の中にいる人は、ただちに海から上がり、海岸から離れて下さい。</p> <p>津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。</p> 

●平成25年8月30日から、大雨や地震、津波などにより大規模な災害の発生が切迫していることを伝えるために、新たに「特別警報」の運用を開始しました。

※津波については、大津波警報が特別警報に位置づけられています。

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動を取って下さい。

●津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。

●マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、大津波警報や津波警報が発表されます。

●地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配が無い場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

※気象庁HPより抜粋・追記

津波に関する情報伝達経路

気象庁

気象庁は、津波による災害の発生が予想される場合、地震が発生してから3分以内を目標に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

大津波警報(特別警報) 高いところで3mを超える津波が予想され、厳重な警戒が必要な場合	津波警報 高いところで1mを超え3m以下の津波が予想され、警戒が必要な場合	津波注意報 高いところで0.2m以上1m以下の津波が予想され、注意が必要な場合
---	---	---

※特別警報含む

長岡市

状況に応じて、下の伝達手段により、避難勧告・避難指示が発令されます。

気象庁の津波警報等の発表を受け、下の伝達手段により、大津波警報・津波警報の発表を伝達します。

避難勧告/避難指示

- 津波警報(大津波警報)又は津波注意報が発表され、被害が発生するおそれがある場合又は市長が必要と認めた場合
- 強い地震(震度4以上)もしくは弱い地震であっても長時間のゆれを感じて避難が必要と認めた場合



ラジオ

FMながおか(80.7MHz)の緊急割り込み放送

テレビ

ケーブルテレビ(NCT)の文字テロップ放送

メール・電話

町内会・自主防災組織・NPO等からのメール配信・電話伝達

防災無線

屋外拡声子局・個別受信機による放送

ホームページ

市ホームページのトップページ、ながおか防災情報ページに掲載

消防団・広報車

広報車による警戒広報、避難広報

携帯電話

携帯電話会社の緊急情報提供システム(エリアメール、緊急速報メール)の送信、特殊音でお知らせ



住民のみなさん

津波警報・津波注意報の流れ → 避難勧告・指示の流れ

津波警報・注意報は報道機関より直接住民のみなさんへ発信されます

津波・地震から身を守る ～避難の心得～

①地震のゆれを感じたら津波に注意

強いゆれや長いゆれを感じたら、頭を保護し丈夫な机の下などで身を守りましょう。ゆれがおさまったら、火の始末をしていち早く避難しましょう。



②正しい情報の入手

デマやうわさに惑わされることなく、テレビ・ラジオ報道や市の広報で津波の情報を入手し、正しい情報に基づいて行動しましょう。



③高台へ避難しましょう

波が引かずにすぐに津波がおそってくることもあります。また、繰り返し押し寄せることもあります。



④河川から離れましょう

川をさかのぼる津波は速度が速く、避難の際に川沿いの道や橋を通ることは危険です。



⑤避難に車は使わない

原則として車で避難することはやめましょう。渋滞に巻き込まれ、避難が困難になり、被害を大きくすることもあります。



⑥建物や塀等の倒壊に注意

ブロック塀や門柱等の倒壊や、屋根瓦等の落下のおそれがある狭い道をさけて、なるべく広い道から避難しましょう。



⑦船は沖合へ

沖合では津波を感じません。船に乗っている時はあわてて港に戻らずに、沖合へ向かいましょう。津波の被害を避けることができます。



家族で防災会議を開こう

定期的に家の内外の危険箇所をチェックしよう

災害発生時の連絡方法や集合場所を決めておこう

あらかじめ決められた避難所に避難できない場合など、様々な状況を想定しましょう。

非常持ち出し品・備蓄品を準備しよう

いざというときにすぐ手にできるよう、非常持ち出し品を準備しておきましょう。長岡市でも毛布や簡易トイレなどの備蓄を行っています。万が一の場合に3日程度は自活できるよう、備蓄品を準備しておきましょう。家族の状況にあわせて特に必要なものや、ペット用の持ち出し品の備えも必要です。



全市民が防災要員 ～みんなで助け合おう～

災害が発生した直後は、市や消防などが行う活動に限界があります。いざというときに真っ先に駆けつけて助け合うことができるのは、向こう三軒両隣といわれる近所の方々です。

大きな災害であるほど地域の助け合いが重要になります。日ごろから、隣近所とのコミュニケーションや、町内会や自主防災会の活動に積極的に取り組みましょう。

となり近所へ
声かけをしましょう!



わが家の防災メモ

あらかじめ記入して、家族みんなが分かるところに保管しましょう。

火災・救急
119番

警察
110番

災害用伝言ダイヤル
171番

海上の事故・事件
118番

家族の集合場所を決めておきましょう

家族と連絡が取れず、自宅が被災した場合を想定し、家族で集合場所を話し合っておきましょう。

避難場所	家族が離ればなれになった時の集合場所

緊急時連絡先(家族や親戚・知人、職場、学校、かかりつけの医院など)

氏名 / 施設名	住所	電話番号

防災関係機関連絡先

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
長岡市寺泊支所地域振興課	0258-75-3111	消 防 署	119
長岡市危機管理防災本部	0258-39-2262	水道(長岡市水道局与板営業所)	0258-72-2259
寺 泊 交 番	0258-75-2004	電気(東北電力コールセンター)	0120-175-366
与 板 警 察 署	0258-72-0110	ガス(ご契約会社の緊急連絡先を記入して下さい)	

災害用伝言ダイヤル

災害時には電話が混みあいます。安否確認には災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板を利用しましょう。

音声 災害用伝言ダイヤル(171)

災害用伝言ダイヤルは、地震・噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

伝言の録音



伝言の再生

※通常時は利用できません。毎月1日・15日、1/1~3、防災週間(8/30~9/5)、防災とボランティア週間(1/15~21)に体験利用できます。 ※上記以外の詳細はNTTホームページにてご確認ください。

文字情報 携帯電話「災害用伝言板」・災害用伝言板(web171)

安否情報を文字情報(テキスト)で登録します。登録された安否情報は、電話番号をキーとして携帯電話やパソコンから確認することができます。

※詳しくはご利用の携帯電話会社(災害用伝言板)、NTT(web171)にお問い合わせください。